

履歴書記入要領（採用時用）

必要に応じて行数を増やしてもかまわない。但し、頁数が複数にわたる場合は、両面印刷すること。

年号の標記は、元号または西暦のいずれかに統一すること。

1. 学歴について

- ・高等学校卒業以上の学歴のすべてについて、正式な学校名等を記入するほか、入学、卒業等が判るよう記入すること。（編入の場合は編入学と記入）
- ・留学歴、在外研究歴について記載してもかまわない。
- ・「学位」欄は学位の種類、専攻分野の名称、取得年月日及び学位論文の名称について記入すること。

2. 職歴について

- ・職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても記入すること。
- ・在職期間を明記し、現職については、（現在に至る）と明記すること。
- ・非常勤講師の担当授業科目名は不要である。

3. 学会等について

- ・専攻、研究分野等に関連した現在所属する学会等の入会年月及び名称のみを記載すること。
- ・役職等は、教育研究業績等一覧の「社会貢献」欄に記載すること。

4. 免許・資格等について

- ・教員免許（中学、高校）については、科目も記載すること。

5. 賞罰について

- ・ない場合もその旨明記すること。

[記入例]

学 歴	
年 月	事 項
2000年3月	●●県立●●高等学校 普通科 卒業
2000年4月	●●短期大学 ●●学科 入学
2002年3月	●●短期大学 ●●学科 卒業
2002年4月	●●大学 ●●学部●●学科●●専攻 編入学
2004年3月	●●大学 ●●学部●●学科●●専攻 卒業
2004年4月	●●大学大学院 ●●研究科●●専攻 博士前期課程 入学
2006年3月	●●大学大学院 ●●研究科●●専攻 博士前期課程 修了
2006年4月	●●大学大学院 ●●研究科●●専攻 博士後期課程 進学
2009年3月	●●大学大学院 ●●研究科●●専攻 博士後期課程 修了
職 歴	
年 月	事 項
2004年4月	●●大学大学院 ●●研究科 ティーチングアシスタント (2005年2月まで)
2009年4月	●●県●●市立●●中学校 非常勤講師 (2010年3月まで)
2010年6月	●●県●●市立●●中学校 臨時講師 (2010年12月まで)
2011年4月	●●県●●市立●●中学校 常勤講師 (2012年3月まで)
2012年4月	●●県●●市立●●中学校 教諭 (現在に至る)
学 会 等	
年 月	事 項
2010年4月	日本●●学会
2010年4月	近畿●●学会
免 許 ・ 資 格 等	
年 月	事 項
2004年3月	小学校教諭一種免許状
2004年3月	中学校教諭一種免許状 (国語)
2006年3月	中学校教諭専修免許状 (国語)
2006年3月	高等学校教諭専修免許状 (国語)
2006年3月	臨床心理士
賞 罰	
なし	

教育研究業績等一覧記入要領

年号の標記は履歴書とあわせ、元号または西暦のいずれかに統一すること。

○研究業績の記載について

1. 記載項目：以下の項目について記載すること。

I. 著書

・辞典、事典、ハンドブック等の数項目のみ担当した場合は、VI. の項目に記入すること。

II. 学術論文

- ・学会誌論文、大学の紀要論文等を記載すること。
- ・全国規模の学会誌に掲載された実践論文を含む。
- ・国際会議等のプロシーディング（論文と同等の扱いのもの）

III. 教育実践研究論文

・附属学校園、公・私立学校、教育委員会又は行政関連の研究紀要等に掲載された論文・論説。

IV. 設計・制作、演奏、競技等の実技に関する業績

・体育、芸術等の専門で、実技や設計・制作、演奏に関する業績はここに記載すること。

V. 実践報告

- ・一般雑誌、教育雑誌等に掲載された研究・実践報告・解説。
- ・国際会議等のプロシーディング（発表概要、予稿集など）

VI. 辞典・事典・ハンドブック・翻訳等

・翻訳書・翻訳論文

VII. 学会、研究会発表

VIII. 科学研究費補助金等採択実績

IX. その他

2. 注意事項

- (1) 上記 I から IX の項目において、該当のものが無い項目は削除し、項目番号を繰り上げて記載すること。（記入例参照）
- (2) 各項目内での記載は、小番号を付した上で、掲載・発表時期の古いものから順に記載すること。
- (3) 発行又は発表の年月欄の年は、元号（昭和、平成）か西暦を（併記も可）、履歴書と研究業績等一覧の両方において統一して記載すること。
- (4) 複数頁の場合は、pp. ○-○と記載すること。

- (5) 概要は200字以内とし、主観的な記述は避け、客観的に研究の目的、方法、結果等を簡潔に記載すること（共著の場合、担当箇所、共著者の記載については200字を超えてもよい）。
- (6) 共著の場合は、担当部分を明記すること。（記入例参照）
- (7) 印刷中及び投稿中のもので掲載可のものは受理証明を添付すること。
- (8) 業績が共著の場合は、原則として全員の氏名を当該論文に記載された順に従って、概要の最後に記入すること。但し、著者が4名以上の場合は、その他の著者を省略してもよい（省略する場合は、その員数と記載されている順番を○番目と記入）。
- (9) 博士論文、修士論文については、「著書、学術論文、教育実践研究論文等の名称」欄に題目を記載し、その後に（博士論文）又は（修士論文）と記入すること。
- (10) 上記Ⅱで、査読のある全国的あるいは国際的な学術誌に掲載されたものには、論文番号に下線を付すこと。（記入例参照）
- (11) 学術論文や教育実践研究論文については、「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」欄に、学会名や学校名等を記載すること。（記入例参照）
- (12) 上記Ⅳにおいては、レベルが判るよう発表場所、競技大会名及び順位等を記載すること。
- (13) 上記Ⅶにおいては、発表学会名及び発表場所を記載すること。（口頭発表の場合はページ数の記載不要）
- (14) 上記Ⅷは、研究代表者、分担者の別を明記すること。
- (15) フォントのサイズについては、原則として10.5ポイントとすること。
- (16) 表組の禁則処理を行い、句読点などが文頭に来ないようにすること。
※Microsoft Wordの場合、段落設定の「体裁」で「禁則処理を行う」「句読点のぶら下げを行う」にチェックを入れることで禁則処理が可能。
- (17) 様式の列幅、行幅等の枠組みは、適宜変更可能である。

〔記入例〕

ローマ数字は、該当項目がない場合には繰り上げる。例：著書がない場合には、Iを学术论文にする。注意事項2(1)

概要の内容は、担当部分について200字以内で簡潔にまとめる。注意事項2(5)

研究業績					
No	著書, 学术论文, 教育実践研究論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
1.	I. 著書 教育原理の研究	共著	2003. 3	〇〇出版	<p>教育の社会的機能と社会の教育的機能との両側面を分析, 考察し……を論考した。「教育の社会的基礎」の章を担当(〇〇頁-〇〇頁)。(全頁数〇〇〇頁, 共著者□□□□、△△△△、●●●●(他5名、4番目))</p> <p>共著の場合は、担当部分を明記の上、注意事項2(8)に従って表記すること。</p>
1.	II. 学术论文 〇〇年〇〇〇〇 沖地震に伴う地殻変形	単著	2010. 6	〇〇学研究 (〇〇学会) 〇巻, 〇号, pp. 8-15	〇〇年〇〇〇〇沖地震の際に生じた地殻変形が南北方向の左横ずれ, 東西方向の右横ずれの小断層網により特徴づけられ, ……その結果が一致した。
2.	〇〇の〇〇 における 性の分析			研究紀要 (学〇学部) 5-122	〇〇の〇〇学習実験で従来用いられてきた〇〇〇〇の特性を〇〇を用いて測定し, ……であるとの結論を得た。研究計画の立案とデータの分析を担当。(共著者□□□□、△△△△、●●●●(他5名、4番目))
1.	III. 教育実践研究論文 〇〇を育む授業の創造	共著	2005. 3	〇〇中学校 pp. 〇〇-〇〇	<p>所属する学会名や学校名等を記入すること。注意事項2(11)</p> <p>〇〇を育成する指導法について, 〇〇や△△の側面から検討し, その効果を明らかにした。(共著者□□□□、△△△△、●●●●(他5名、4番目))</p>
1.	IV. 設計・制作, 演奏, 競技等の 実技に関する実績 浮遊する自我	単著	1995. 3	〇〇ビエンナーレ 横浜市	自我と自己の関わりを追究する中で世界と自己とのあり方を浮遊するものと位置づけ…によって表現した作品を〇〇ビエンナーレにおいて空間的に展示した。
1.	IX. 科学研究費 補助金等採択実績 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」	単独 / 共同	2016. 4 ~ 2017. 3	科学研究費助成金 基盤研究(C)	<p>研究概要, 研究分担の内容について記載。</p> <p>研究代表者 担当部分: 調査データの集計・分析 (研究分担者□□□□、△△△△)</p>

○教育業績の記載について

1. 記載項目の例：以下のような項目に整理して記載すること。

- I. 教科書・指導書（初等・中等学校の教科書の執筆に係るものに限る。）
- II. 教育実践・教材（研究業績Ⅲに含まれないもの。大学等における担当授業科目等）
- III. 教育実践に関する特記事項（表彰、新聞・TVなどへの紹介等）

2. 注意事項

- (1) 上記 I から III の項目において、該当のものが無い項目は削除し、項目番号を繰り上げて記載すること。

○社会貢献の記載について

1. 記載項目の例：以下のような項目に整理して記載すること。

- I. 審議会・委員会・国家試験委員等での活動
- II. 学会や学術団体等での活動
- III. 生涯学習等に係る活動
- IV. 地域教育活動（教育行政・学校教育等）に関する指導・助言・講演等

2. 注意事項

- (1) 上記 I から IV の項目において、該当のものが無い項目は削除し、項目番号を繰り上げて記載すること。
- (2) 上記 I. については、履歴書（「学会及び社会における活動等」欄の記載内容と一部重複する場合がある。
- (3) 上記 III. には、大学における公開講座等も含まれる。
- (4) 上記 IV. には、大学の講師派遣事業（出前講義）による活動や、スクール・カウンセラー等の活動についても記載すること。
- (5) 上記 III. 及び IV. については、公募締切日が属する年度を含む過去4年間について記載すること。

○大学運営の記載について

1. 記載項目の例：以下のような項目に整理して記載すること。

- I. 大学運営において果たした役割
- II. 各種委員会・専門委員会・ワーキンググループ等の構成員としての役割

2. 注意事項

- (1) 上記 I. 及び II. の項目において、該当のものが無い項目は削除し、項目番号を繰り上げて記載すること。
- (2) 上記 I. については、管理職として大学運営に果たした内容や期間を記載すること。従って、それは履歴書（職歴）の記載内容と一部重複する場合がある。
- (3) 上記 II. については、公募締め切り日が属する年度を含む過去4年間について記載すること。
- (4) 大学以外の機関に所属する者の場合は、「大学」を当該機関に置き換えて記載すること。

○教育・研究に対する考え方や抱負の記載について

1. 注意事項

- (1) どのような教育・研究を行いたいと考えているのか。教育・研究に対してどのような抱負を抱いているのか。どのような学生指導を行いたいと考えているのか等について、1200字以内で記載すること。
- (2) 思想・信条の記載を求めているのではない。